



# 한청통신

韓 青 通 信

2012年3月号

今号のラインナップ：第48回冬期講習会報告／参加者からの声／2012年決戦に向けて／在日韓国人青年が送る韓国政党アンケート／『歴史の意志を实践する』／情勢NEWS／編集後記

## 第48回韓青全国冬期講習会を開催！！！！

3月2日～4日、長野県志賀高原で、第48回韓青全国冬期講習会（スノーフェスティバル2012）を開催しました。「駆けぬげよう 2012！祖国とともに！民族とともに！」をテーマにした講習会には全国各地から同胞青年が参加し、普段味わうことの出来ない同胞だけの空間で、スキー、スノーボード、レクリエーション、民族文化発表、そして熱いディスカッションを通じて交流と親ぼくを深めました。

内容をふり返ると、神奈川のノレ指導もさわやかに、司会の抱腹絶倒のオープニングからはじまった開会式。各役員や個性的な班長団紹介、そして班分けが発表され、3日間がはじまりました。

そして恒例のゲレンデ・室内レクは、東京本部が担当。ゲレンデではクオリティの高さにビックリの民族雪だるまコンテストや班別対抗のゲームなどを楽しみました。また室内レクでも、馬乗り&馬跳び対決、スリッパリレー、民族知恵の輪、ジェスチャーゲームで例年以上に盛り上がりました。

また講演企画も盛りだくさんでした。初日のグループ別企画では、初参加者の多いAグループで朴明哲・副委員長が「朝鮮半島と日本の150年ー在日同胞と祖国をむすぼう」というテーマで、植民地から分断へと続く近現代史をひも解きながら、現在の問題を訴えました。幹部が中心のBグループでは金承民・副委員長が「2012年政治決戦勝利に向けた私たちの課題」と題して情勢講演し、在外選挙の意義、進歩的政権交代実現への展望を解説しました。

2日目は文世賢・中央委員長「民族的に生きることへの考察～一人の在日同胞青年の視点から～」をテーマに全体講演を行ない、自身の経験を語りながら、現状の矛盾と闘うことこそが「民族的に生きるこ



と」であると熱く語りかけました。参加者はふたつの講演をもとに班別でディスカッションを行ない、活発な討論を行いました。

2日目の夜にはいよいよメインイベント、民族文化マダン！オープニングを飾ったのは、三重県本部、会場を一気に盛り上げる圧倒のサムルノリ。その後も、韓米FTA反対をテーマにした大阪のタルチュム（仮面舞踊）、迫力満点の東京のノレ・アンサンブル、息のそろうた京都の律動、1980年光州をテーマにした愛知の面目躍如の構成劇、会場が踊りだした神奈川の雲雨風雷（ウヌブンネ）など、各地方がこの日までに一生懸命努力した成果をいかんなく発揮し、文化マダンを彩りました。

各班の寸劇も秀逸で、「民族に生きる」ことを基本テーマにしなが、在外選挙などのトピックも取り入れながら、抱腹絶倒の寸劇が連発でした。フィナーレは、兵庫県本部の力強いプンムル。会場を巻き込んだ群舞で参加者全員が民族文化の楽しさ、すばらしさを体感した瞬間でした。

そして最後に閉会式では、「民族的に生きるために頑張る」「これから韓青活動にまい進する」といった感想、決意を全員で共有し、各地方に帰ってからの「更なる一歩」を約束しました。



# 第48回冬期講習会に 参加して・・・

大阪府本部 ムン・スヒョン

今回、僕はキャンプ初参加でしたがそれでもとても楽しめました。実は参加する前はスノーボードが一番の楽しみにしていたのですが、実際に参加してみると、スノーボードだけでなく文化発表や寸劇、班別討論など充実した行事が盛りだくさんで楽しく3日間を過ごすことができました。

キャンプを楽しく過ごすことができた大きな理由は、班のメンバーがとてもよかったことだと思います。特に班長や、副班長は話が面白いだけでなく、班別討論においても自分が出した意見に対して的確な反論、質問を返してくださったりして討論を盛り上げてくれました。また、他のメンバーもそれぞれ意見を持っており、中には自分とはまったく異なるものもありました。でもそのおかげで自分のルーツ、アイデンティティについて改めて考える良い機会になりました。

寸劇に関しては、残念ながら賞はもらえませんでした。あらすじを考えている最中がとても楽しく、また、個人で熱演男優賞をもらったのでとても満足しています。他の班の寸劇も面白いながらそれぞれ自分の民族に対する考えなどを上手に表わして楽しんでながら勉強することができました。

また文化発表では、大阪はタルチュムをやったのですが予想以上に評判がよく、一生懸命練習した甲斐があったなと思いました。もちろん他の地域の文化発表もレベルが高く、中には初めて見るものや知ったこともあったのでとても勉強になりました。機会があれば他の文化発表にもチャレンジしてみたいです。

また、スノーボードは人生で初チャレンジだったのですが、いきなり中級者以上のコースに挑んだせいもあってか結構滑れるようになりました。時間の都合上、滑る時間が少なかったのが残念でした。

最後に、キャンプに参加して一番驚いたのがみなさんのパワフルさでした。司会に始まり、ノレ指導、班別討論など熱い方ばかりでこの中で3日間埋もれずにやっていけるのだろうかと思ってしまうくらいです。このキャンプでそういった方々全員と知り合いになれたわけではありませんが、少しでも人間関係の輪が広がったことは僕にとってとても貴重な経験です。今年からは社会人ですが、なるべく韓青の活動に参加してさらにその輪を広げていきたいです。

韓国語教室

「ムグンファ」

見学・体験レッスン随時受付！

担当：金梨恵(キム・イハ)

080-6510-1973

韓国語教材専門インターネット書店

ハングルの森



Internet Bookstore

한글의 숲

<http://www.rakuten.co.jp/eac-hg/>



# 第48回冬期講習会に 参加して・・・

三重県本部 ホ・ソングョン

今回私が初めて参加したスノーフェスティバル韓青全国冬期講習会は、2泊3日というとても短い時間でしたが、私の在日朝鮮人としての意識が変わるとても濃い3日間となりました。

このスノーフェスティバルに参加しようと思った理由は、とても些細なことがきっかけでした。それは、5年程前からこのスノーフェスティバルに参加している私のオンニに、「今年は三重の参加者全員でサムルノリを発表することになったんやけど一緒にしやん？」と誘ってくれたことがきっかけでした。もっと詳しくこの行事について知りたいと思いオンニに話を聞いてみると、「勉強もするけどソングョンの好きなスノーボードもできるし楽しいよ！」と言われたので私は正直、「勉強はあまり好きではないけど韓国の民族楽器を演奏したいし、スノーボードもやりたいから参加しよう！」と少し軽い気持ちで参加することを決めました。

当日会場に着くと、想像していたよりもたくさんの参加者がいて三重のメンバー以外初めて会う方ばかりだったので、皆と打ち解けられるかとても不安でいっぱいでしたが、開会式で司会のオッパとオンニがとても楽しく会場を盛り上げてくれて自然と笑顔になれたので、そんな不安もいっきに吹き飛びました。

1日目は、グループ企画で「朝鮮半島と日本の150年 - 在日同胞と祖国をむすぼう」という講演を聞きました。私はここで衝撃を受ける事実をたくさん知りました。親にも聞いたことのない、日本学校でも習わなかった私の祖国、朝鮮半島と日本の歴史を初めて聞き、私の祖先にこんな残酷なことがあったのかと耳を塞ぎたくなる様な、信じたくない話を聞き、私は在日朝鮮人として何故今までこのことを知らなかったのかと、とても悲しい気持ちになりました。

2日目は、ムン・セヒョン中央本部委員長の講演を聞きました。ムン・セヒョン中央本部委員長の講演はとても面白く1時間という短い時間であつという間に終わってしまい、もっとたくさんのお話を聞きたいと思いましたが、その中でも私が一番印象に残っている言葉は、「統一祖国にするということは闘うということ。それが私たちが民族的に生きるということ。」という言葉でした。私はまだまだ勉強不足ですが、このスノーフェスティバルでたくさん民族的に生きるとはどういうことなのか、ということを考えていたのでこの言葉の意味をもっと深く知りたいと思いました。

この講演の他にも、レク委員が企画してくれたゲレンデ企画や大広間でのレク、自由時間でのスノーボード、各地域の文化発表やそれぞれの班が考えた文化マダン寸劇など、たくさんの楽しい時間や考えさせられる時間があり、笑いあり涙ありの本当に充実した3日間になりました。

このスノーフェスティバルというとても楽しくて、祖国のことを学習でき自分のためになる行事にたくさんの同胞が参加してほしいと思ったし、私 もぜひ来年のスノーフェスティバルも参加したいと思いました。こんな素敵な行事を企画してくれた関係者の方に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にコマッスムニダ。

～2012年 政治決戦に向けて～

# そうだったんだ！ 国政選挙

## Vol.6 プレイバック国政選挙④

### 《第16代大統領選挙（2002年12月19日）》

～“南北の和解と協力”を望んだ民衆～

#### ● 女子中学生れき殺事件 - 民族自主の高揚

2002年6月13日、京畿道に住むシン・ヒョスンさんとシム・ミソンさん（当時、ともに中学1年生）が友人の誕生パーティーに行く途中、米軍装甲車にひかれて即死するという痛ましい事件が発生しました。折りしもサッカーW杯で韓国代表チームの快進撃に韓国全土が沸き立っているときでした。

米軍は当初事故として見舞金程度で処理しようとしたのですが、遺族、市民団体の反発に急きょ韓米合同調査団を構成します。しかし中途半端な調査結果に遺族や市民団体の怒りは一層高まり、抗議行動はキャンドルデモとして全土を巻き込みました。



▲キャンドルを手にする中高生たち

連日くり返された抗議行動には、犠牲になった女子中学生と同年代の青少年も大勢加わり、ブッシュ大統領の謝罪などを求めた抗議署名は4ヶ月で100万人を突破しました。この過程で米軍犯罪が韓国司法で裁けないという不平等性も指摘されるなど、「反米の無風地帯」とまで言われた韓国で民衆が堂々と「対等な韓米関係」を求めたのです。

#### ● 民衆の選択は南北和解！

こうしたなか第16代大統領選挙は、6・15宣言を守り南北和解を発展させるのか、6・15共同宣言を破棄して北との戦争も辞さないのか、を選択する極めて重要な選挙として注目を集めました。



▲就任式にのぞむ盧武鉉大統領

この大選で一大旋風を巻き起こしたのが盧武鉉（ノ・ムヒョン）候補でした。当初は泡まつ候補とまで評された盧武鉉候補は、党内の予備選挙で大方の予想を覆して勝ちあがり、大選でも得票率48.9%で46.6%だった野党ハンナラ党の李会昌（イ・フェチャン）候補を下して大統領に当選しました。

盧武鉉候補を支持した人々は、まさにキャンドルを手に街頭に飛び出した民衆たちであり、この結果は南北対立ではなく民族和解を、対米追従ではなく対等な韓米関係を、特権ではなく平等を民衆が選択した証明でもありました。また「ノサモ」（盧武鉉を愛する会）と呼ばれる進歩層や、ネチズム（インターネット市民）による選挙支援も、民衆による参加民主主義の象徴として注目を集めました。

政党の皆さん  
教えてください！

# 在日同胞青年が送る 韓国政党へのアンケート

去る3月上旬、韓国国会で議席をもつ国内政党に対して4月の総選挙に向けたアンケート調査を実施しました。現在は回答を待っている状況です。以下にアンケートの全文を掲載します。

韓国社会および韓民族の未来のために日夜奮闘されている貴政党に心より敬意を表します。

私たちは日本に住む在日韓国人2世、3世、そして4世で構成される在日韓国青年同盟と申します。

このたび国内の選挙法が改正されたことで、私たちにも選挙権が付与されました。そして来る4月の総選挙では初めて国政選挙に一票を投じることとなり、その歴史的意義を実感している次第です。

つきましては、総選挙への関心を高め、目的意識をもって投票に参加するためにも、「在日同胞青年が送るアンケート」を行うことにいたしました。お忙しい中お手数ではありますが、在日同胞青年の投票への関心を高めるためにも、ぜひともアンケートにご協力をお願いします。

## 1. 南北関係 - 6・15共同宣言に関して

2000年の6・15共同宣言以降、開城工業団地をはじめ発展し続けてきた南北関係が長期にわたって停滞し、今では極度の対立状況に陥っています。こうした状況を生み出した主要な原因と、その解決策についてどのようにお考えですか？

## 2. 在外同胞の選挙権に関して

選挙法が改正されたことで今年の総選挙および大統領選挙から初めて在外同胞にも選挙権が付与されましたが、4月の総選挙に向けた特別永住権をもつ在日同胞の選挙人登録者数は1万202人であり、推定有権者数に対して2.76%の登録率となりました。この結果をどのように受けとめ、またその原因などに関してどのように分析されますか？

## 3. 民族教育に関して

外国に居住する韓国人が増加する中、海外同胞の民族的アイデンティティを育成する課題は極めて重要であるといえます。海外同胞、特に植民地支配の生き証人でもある在日同胞青年に対する民族教育に関して、政策やビジョンをお持ちでしたらお教えてください。

## 4. 韓国現代史の歴史認識に関して

韓国現代史を振り返ると、無罪にも関わらず国家保安法に基づくでっち上げ事件によって拘束され、ひどい拷問を受けたり、死刑に処され刑場の露（つゆ）となった方々も少なくありません。こうした歴史が繰り返されないためにも、参与政府（盧武鉉政権）時の歴史見直し政策をどのように評価しますか？また国家保安法に関してどのような認識をお持ちですか？

## 5. 自由回答

在日同胞に向けて、特に在日同胞青年に向けてアピールしたいことをお書きください。

アンケート調査結果は、あつまり次第韓青通信に掲載していきます。

# 歴史の意志を実践する！

連続企画「歴史の意志を実践する！」。このコーナーでは、裴東湖記念研究所より発刊されている『歴史の意志を実践する－唯物弁証法と民族主義で読む「愛国論」の世界』の学習を通じて、韓青盟員が理論学習を積み、日々の実践に還元していくために、そして民族的に生きる力としていくために、学習のフィードバックレポートを掲載しています。今回は第6回目として、学習会に参加した感想・決意を全国の同志にむけて、東京本部・足立支部のキム・ユリ委員長が述べてくれました。

キム・ユリ

私は、「歴史の意志を実践する」とは、まさに韓青にあると思っています。

韓青に集う青年たちは、朝鮮半島にルーツを持つという揺るがない歴史的な事実でつながっています。韓青は私にとって、弱音をはける場所であり、自分の存在価値を高める場所であり、また、韓青で感じるかけがいのない思いをカタチにする場所でもあります。

最近、初めて支部に来た同胞青年が、支部空間の中で、「初対面なのに、在日というだけで無条件に親近感が沸きます」と話していました。今まで日本人として生き、日本人の友人に囲まれて生活してきた彼は、民族空間に触れることもありませんでした。それでも心の片隅には常に日本人とは違うという意識を持ちながら生活していたのです。彼はその微妙な違和感を抱いたまま、決して言葉にする事はなく平凡に過ごし、きっと韓青に出会わなければその違和感にさえ気付くことはなかったでしょう。彼が発した何気ないその言葉の中には、日本社会の中に生きる一在日同胞青年が、日々、無意識に感じる小さな苦痛が積み重なって吐露された思いだと感じました。

私自身、韓青の中で学習を繰り返す中で、彼のそのような思いは決して偶然抱く感情ではなく、歴史の中に自分たちが生きているという事実が必然的に重なって感じられる感情だと確信することができます。一人の在日同胞青年が抱く思いは決して大きなものではないかもしれないけれど、韓青ではそのかけがいのない思いを汲み、共有することが大切だと思います。学習を積み重ね積むほど知らなかった自分に気づき、その思いは今のこの状況を変えなければならないという意志に変わっていきます。

私たちのハラボジ、ハルモニが抑圧の中で受けてきた苦難は、私たち民族の「恨（ハン）」であり、アボジ、オモニが差別的な屈辱の中で抱いた悩みは、決して個人の悩みではなく、すべてにおいて朝鮮半島にルーツを持つ在日同胞自身へつながる問題だと認識できます。そして、私たちの世代は、今もなお、差別構造が変わらない上、さらにそれが見えにくくなっている状況の中で生きています。

在日同胞青年の一人として韓青で気づいた思いを、一人でも多くの同胞青年に語りかけ、分かち合いながら、大きな輪をつくっていくことが今の私たちの役割だと思います。韓青のとある先輩が「正義は少数から始まる」と話された言葉が心に残っています。私たちが真の主人として明るい未来を自らの手で切り開くこと、どんなに小さな力でも、隣にいる仲間とつながり、互いに手を取りあって立ち向かうこと・・・このように決して一人ではできないことを韓青では成し遂げることができます。

「歴史の意志を実践する」を読み込んで自分のものにするには時間のかかる作業ですが、私たちにとって民族的に生きるという大きな課題を与えてくれました。そこに書かれている民族的に生きる意味を活動に反映できるように常に心がけ、その思いを韓青の中で一人でも多くの同胞青年に広めていきたいと思っています。



# 情勢 NEWS

## ＜朝米の平和協定がいよいよ本格化＞

第3回朝米高官協議が2月23日から24日に北京で開かれ、2月29日に北朝鮮外務省と米國務省が合意事項を同時発表しました。

それによると「朝米関係改善のための信頼醸成措置と朝鮮半島の平和と安定補償、6者会談の再開問題と関連した問題」が討議され、より具体的な確認と合意がなされました。

北朝鮮側の発表では「朝米双方は9・19共同声明履行を再確認し、平和協定が締結されるまでは停戦協定が朝鮮半島の安定のための礎石になることを認めた。双方はまた、朝米関係を改善するための努力の一環として一連の措置を同時に取ることで合意した。」とあり、米国側の発表でも「米国は9・19共同声明遵守の意志を再確認する」「米国は1953年停戦協定を朝鮮半島平和、安定の基礎であることを認める」と言及しています。その上で、米国の対北朝鮮敵対意思についても「敵対的意思を持つてはおらず、相互主権尊重と平等の精神に基づき両者の関係を改善する」ことと、人的交流も「増大させる」、制裁措置についても「住民の日常生活に対する制裁を目標にしたものではない」と、米国は発表しました。

1953年の停戦協定を「朝鮮半島の安定の基礎」とも確認しましたが、停戦協定には、停戦協定締結の3ヶ月後までに一切の外国軍を撤退させること、領域（朝鮮半島）外からの一切の兵器の搬入を認めないと規定されています。今回の合意がしっかりと履行されていけば、停戦協定の平和協定への転換が、いよいよ本格化することでしょう。

その一方で、24万トンの食糧支援における前提条件（北「即時」、米「監視体制を協議後」）、核査察での期間（北「朝米関係の良好な期間」、米「言及なし」）や、対象（北「寧辺のウラニウム」、米「黒鉛減速炉も追加」）で、双方の発表に食い違いが出ました。

交渉にあたった米国・デービス特別代表（左）と  
北朝鮮・金柱寛特別代表（右）



しかし食糧支援では、その後の協議で監視体制などを合意して、障害を乗り越えることができました。いずれにしても、双方に、関係改善の意思がある限り、解決できる課題であると考えられます。

そのような中、北朝鮮は「朝鮮宇宙空間技術委員会」の3月16日の代弁人談話を通じて「今回打ち上げる『光明星3号』は地球観測衛星であり、運搬ロケット『銀河3』を使って平安北道鉄山郡の西海衛星発射場から南に向けて4月12日から16日の間に発射される」と公表しました。

北朝鮮側は「宇宙条約をはじめ、宇宙の平和的利用に関する普遍の国際法に準じる自主的かつ合法的な権利」との立場で、「平和的衛星の打ち上げは、朝米合意とは別の問題」と指摘しながら、「朝米高官協議で終始一貫、衛星の打ち上げは長距離ミサイルの発射に含まれないと明らかにした。」と主張しています。

米国が人工衛星の打ち上げを問題視するのは、「衛星の打ち上げが長距離ミサイルのような弾道ミサイル技術を利用するため」としていますが、その根幹は北朝鮮に対する対決観念にあります。

結局、朝鮮半島の平和と安定の課題は、米国が「相互主権尊重と平等の精神に基づき両者の関係を改善する」覚悟を持ち続けることができるかどうかにかかっていると看做されるでしょう。

朝米関係の改善の課題に加え、韓国の総選挙など、4月は今後の朝鮮半島情勢を展望する大きな分水嶺となるでしょう。

# 活動紹介



## 3・1朝鮮独立運動93周年

韓国・沖縄の人びとと連帯し平和をつくろう！ 2・25集会！



2月25日、都内において、3・1朝鮮独立運動93周年・韓国・沖縄の人びとと連帯し平和をつくろう！2・25集会が開催されました。この集会には韓国からゲストとしてソン・ミヒ氏（全国女性連帯共同代表・世の中を変える民衆の力共同代表）が「2012年政治決戦－韓国進歩陣営の闘い」と題して、講演をおこなっていきました。

またこの集会では、「環境影響評価書糾弾！辺野古基地建設阻止へ」、「水曜デモ1千回-今こそ日本軍「慰安婦」問題解決を」、「朝鮮高校への「無償化」適用を直ちにおこなえ」と題した報告もあり、朝鮮半島の平和と和解、そして東北アジア全体の平和を参加者一人一人が感じた集会でした。

## 今後の活動予定

알림판 알림판 알림판 알림판 알림판

### PICK UP!

#### ◎ 2012年韓青春期ウリマル開講式

韓青春期ウリマル開講式の季節がやって来ました。今年も全国各地で開催します。

お問い合わせはこちらへ

**0120-734-101 (フリーダイヤル)**

地域	開催日時・場所
東京	4月21日(土) 荒川区
神奈川	4月25日(水) 本部教室
愛知	4月25日(水) 本部教室
三重	4月25日(水) 本部教室
京都	4月25日(水) 本部教室
大阪	4月25日(水) 本部教室
兵庫	4月25日(水) 各支部教室

ウリマル開講式のほか、各本部・支部で毎週1回、10代後半～20代の朝鮮半島にルーツを持つ青年を対象に韓国語教室を開催しています。身近で在日同胞青年のお知り合いがいれば、是非、ご紹介していただきたいと思います。韓国籍や朝鮮籍・日本籍などの国籍は問いません。「朝鮮半島にルーツを持つ方」であれば、どなたでも歓迎です。またウリマルだけではなく、文化や歴史など、在日同胞同士の空間を堪能できます。

### \*お知らせ\* 在外選挙投票について

**第19代国会議員選挙 在外選挙投票日は3月28日(水)～4月2日(月)の期間となっています。**

#### 編・集・後・記



在外選挙人登録も終わり韓国では4月に総選挙が控えています。私たちにとっては初めての投票も3月28日からはじまります。是非、みなさん投票にいき、祖国の未来を私たちの手で切り開いていきましょう。(徐)